
ふとっちょ君

久羽 沖

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ふとっちょ君

【ZPDF】

Z6857L

【作者名】

久羽 沖

【あらすじ】

いじめられっこのがれきの話。

ある村に食べるのが大好きなん。
ふとっちゃんのふとっちゃん君がいました。

村で一番ふとつちょうのふとつちょう君は、みんなからいじめられてばかり。

「や二、ふといひよ。お前でかくでジャマ。」

「やい、ふとっちょ。お前汗かきでキタナイ。」

「やい、ふとひちゆ。お前遅いからソニーイロ。

「井川のまみ」

じすん、じすん、走るふとひちよ君。

たたかれて消えていく

見えなくなつたみんなの方を見ていると、太陽が沈んできて、ふと
つちょ君を赤く染めます。

「おへそ」

ふと今が頃は泣き出しました。

ふとつちよ君の影はどんどん伸びて大きくなります。

「これ以上大きくなりたくないよ。」

ふとひちよ 頭は悲しくて動けなくなりました。

その日から太陽は沈まなくなりました。

ふとひちよ 頭はすりつゝと泣き続けています。

するとみんながやつてきて、ふとひちよ君の影に入りました。

「おー、ふとひちよ。お前がでかくて助かった。」

「おー、ふとひちよ。お前汗かきだから水をやる。」

「おー、ふとひちよ。お前遅いけど、みんなで待つてやる。」

ふとひちよ 頭は嬉しくて動けるようになりました。

だけど動きませんでした。

すると太陽は沈みはじめました。

「やめとよ。」

「影がなくなると、みんなどこかに行つたやつ。」

だけど太陽は沈んでしました。

そしてみんなどこかに行きました。

でもみんなすぐに戻つて来ました。

みんなはふとっちょ君がまだ動けないと思つてゐるのです。

たくさんの食べ物や飲み物を持って来てくれたのです。

ふとっちょ君は泣きながらみんなに謝りました。

そして笑顔でありがとうございました。

ふとっちょ君が今までいじめられていたのはふとっちょだからではないのです。

ふとっちょ君がいつも悲しい顔をしていたからなのです。

太陽が沈むと暗くて見えにくいので、また明日笑つて遊びましょう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6857/>

ふとっちょ君

2010年10月9日05時36分発行